

新しい交通ネットワークができる時、宇都宮市が発展するチャンスが生まれる！

LRTと宇都宮市の未来

宇都宮市民の皆さんならばもうご存じと思いますが、2年後の令和5（2023）年にJR宇都宮駅から芳賀・高根沢工業団地を結ぶ新たな交通システム（LRT）が開業します。今回はLRT事業の概要や工事の現状、あわせてJR宇都宮駅東口再開発や中心市街地活性化などについてご紹介します。



特集
LRTと
これからの
地方都市

車両の愛称は
「ライトライン」

LRTの車両は、丸みを帯びつつスピードも感じられるスタイルと、黄色を車両のメインカラーとし、背景色としてダークグレーを用いた色彩デザインが特徴的です。実際の車両は写真で見る以上に親しみやすさが伝わってきます。

この車両の愛称を決めるアンケートを、令和2年12月から今年1月にかけて実施したところ、4万票以上の投票があり、その中から選ばれた愛称が、「ライトライン」です。

『「雷都」を冠した愛称。「LIGHT」はLRTの一部であることはもちろん、「光」「明るい」の意味もあり、「LINE」との組み合わせにより、「（未来への）光の道筋」といったメッセージも込められた愛称です」（宇都宮市ホームページより）

運行は3両編成で、運行時刻は午前6時台から午後11時台を予定しています。運行間隔は通常は10分間隔、ピーク時には6分間隔の予定です。利便性の高い交通機関となりそうです。

ちなみに、運行開始時の始発である宇都宮駅東口から終点の芳賀・高根沢工業団地まで、約14・6キロを、約44分（快速運行は約38分）でつなぎます。最高運転速度は約40キロなので、体感的には自動車や一般の電車よりゆつくりというイメージですが、軌道の上を走るの、かなり正確に所要時間を計ることができ、安心して利用できます。

乗降は
ICカードを導入

停留場は無人の予定となっており、乗車料金は車両に乗り降りする際に支払うこととなります。

ライトラインには2種類の乗降方法があります。ひとつは現金支払いで、これは車両の前方にある運賃箱に整理券と運賃を入れて精算します。もう一つはSuicaなど交通系ICカードを使うものです。こちらはすべての扉で使えます。乗降扉横にあるカードリーダーを使い、乗る時に一度タッチし、降りる時にもう一度タッチすれば、それで精算は完了です。

宇都宮市では今年3月から、市内のさまざまな公共交通機関で利用できる独自のICカード「totra（トトラ）」を発売しています。Suicaのシステムを使っていますから、全国でも利用可能です。他にも「路線バスの運賃の2%を交通ポイントとして利用者に付与」「高齢者外出支援事業等で福祉ポイントを付与」などの特徴があります。



宇都宮市内のさまざまな公共交通機関で利用できる独自のICカード「totra（トトラ）」

整備が進む
次世代公共交通システム

宇都宮市が進めている「ネットワーク型コンパクトシティ（以下、「NCC」という）」については、これまでも『天地人』誌面でご紹介してきました。宇都宮市内の核となる中心部の都市拠点や、各地域に設けた地域拠点などに、さまざまなまちの機能を集約し、それらを公共交通などでネットワーク化することにより、さらに進展する高齢化などの課題に対応する政策です。

この政策の要の二つが、現在建設を進めているLRT（次世代路面電車システム）です。

一般的な電車などとは違い、道路に軌道を設置して、そのうえで低床式車両を運行させるLRTは、いわば「未来型の路面電車」。乗降の容易性、定時性、速達性、快適性などの面で優れた特徴を持っています。その整備効果については自動車交通を少なくして道路交通を円滑化させる、停留場や車両などにバリアフリーを導入して誰もが利用しやすい交通環境を整備する、他の公共交通とネットワーク化することで利便性を向上させる、地域の活

性化などに寄与するなどが挙げられます。「NCC」の中心的役割を果たすにふさわしい交通システムです。

宇都宮市は平成25年3月に、東西基幹交通の実現に向けた基本方針を策定し、正式にLRTの導入を発表しました。その後平成27年11月に宇都宮ライトレール株式会社を設立、2年後の平成29年8月には国に工事施行認可を申請しました。翌平成30年3月に認可を取得し、同年6月に工事を着工、現在着々と建設が進められています。

開業は、当初は令和4年3月が予定されていましたが、新型コロナウイルス感染症などの影響により、現在は令和5年3月開業の予定となっています。

ルートについては図1をご覧ください。停留場の名称は、地元の方々へのアンケートなどを元に名称検討委員会候補を選定し、誰からも親しみやすいものとなっています。

現在工事を進めているルートの全線の長さは、約14・6キロ（複線）。停留場数は19カ所で、いずれも完全にバリアフリーを実現します。

停留場の中に「トランジットセンター」と呼ばれるものが5カ所あります。トランジットセンターは「交通結節点」とも呼ばれ、LRTとその他の交通（バスや電車、自動車など）とを連結させる役割を持っています。芳賀・宇都宮LRTでは、規模が大きくLRTの利用促進を図るうえで重要な停留場5カ所をトランジットセンターと呼んで、他の停留場と区別しています。

図1 LRT区間地図と停留場名



★はトランジットセンター（乗り継ぎ施設）の想定箇所です



LRT車両「ライトライン」外観です。愛称も黒と黄色のカラーリングも「雷都」にちなんだ、親しみやすいデザインです。

THIS IS LIGHTLINE

写真で見る「ライトライン」

LRTの車両見学会は宇都宮市が開催しています。不定期ですが、市のホームページに募集内容などの情報が掲載されていますので、参加希望者はアクセスしてみてください。

「ライトライン」を大公開！

LRT車両を写真でご紹介します。開業後は3両編成で運行されます。



LRTは、基本的にICカード（totraなど）で乗降するシステムです（現金での乗車も可能です）。totraには交通ポイントもつので、ぜひ活用してください。



床には大谷石イメージしたデザインを採用し、宇都宮らしさを表現しています。細部にも気を配ったデザインです。雨の日泥だらけの靴で踏むのは、ちょっと気が引けるかも？



随所に設置された、荷物置きスペース。通常の公共交通機関ではあまり見かけませんが、利用者にとってはうれしい工夫です。

停留場はこんなところ！

工事の進んでいる工業団地のエリアには、ほぼ完成している停留場もあります。今回掲載した停留場はどちらもほぼ完成しており、開業が近くなった時点でベンチなどを取りつけます。また、それぞれの停留場のある地域の特徴を描いたパネルもつける予定です。どんなパネルがつくのか、楽しみです！



宇都宮市ホームページ

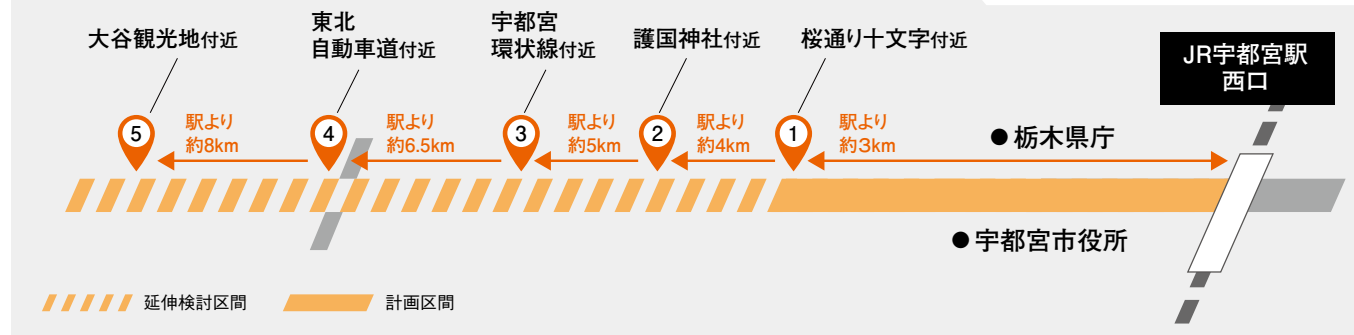


グリーンスタジアム前停留場です。サッカーなどスポーツ好きは、きっとこの停留場の利用回数が増えるでしょう。



清陵高校前停留場は、作新学院大学の学生も利用すると予想されます。朝夕の通学時間は、きっとにぎやかになることでしょう。

図2 西側区間の計画・延伸検討区間



西側区間の計画・延伸検討について

さて、現在整備が進められているLRTの路線はJR宇都宮駅の東側ですが、今後は西側への延伸も計画されています。どのようなルートを通るのか、どこまで延伸するのかはまだ検討段階ですが、現時点では桜通り十文字交差点付近まで延伸する計画となっています。その後どこまで走らせるかについては、現在も意見を集約したり、実現性を調べるなどしているところです。

LRTをどのようなルートでどこまで走らせるのかについては、中心市街地の活性化とも密接に関わってきますので、より良い計画を立ててほしいところです。

他の公共交通などと結ぶ仕組みも

LRTと他の公共交通との相関についても紹介しましょう。

LRTは、宇都宮市の政策「NCC」の中でも重要な存在です。すでに14の地域で開始している地域内交通（デマンドタクシーなど）や従来の鉄道、路線バスなどの連携をすることを想定しています。今後高齢化が進み、公共交通の重要度がさらに高まることは間違いありません。それに備えて、さまざまな公共交通の結節点となるLRTの整備が進められ

ています。

最初の節でも触れたように、LRTの停留場の中には、5カ所のトランジットセンターがあります。これらはいずれも、停留場としての役割と同時に、他の交通機関とLRTをつなぐ役割も持っています。

特に「平石」では、自家用車と公共交通を結ぶパーク＆ライド駐車場に加えて、都市型のスポーツや健康づくりを楽しむことのできる公園を整備し、「にぎわい」と「交流」のポイントとしても構想されています。また、地元の農産物の販売など、地域資源を活用することも構想されていますから、完成した時には、人気スポットとなりそうです。

このように、LRTと地域内交通は、ただ単に結びつくだけでなく、互いに効果を高めあうことも期待されています。

宇都宮市は令和元（2019）年に「SDGs未来都市」に選定されました。これは、宇都宮市がそれまで行ってきたSDGs達成への取り組みが、高く評価されたものです。

この選定を機に、宇都宮市ではさらに積極的にSDGsに取り組んでいます。LRTも、自動車という化石燃料消費型移動手段からの脱却により低炭素社会をめざす一環としての意義を持っています。

昨年7月には「宇都宮駅東口地区の低炭素まちづくり計画」を策定し、LRTとも深く関わっているJR宇都宮駅東口地区の開発をこの計画に基づいて行うこととしています。

「NCC」のネットワークが目指しているのは誰もが快適に移動できる「公共交通とクルマが共存できる社会」であり、LRTは単に宇都宮市の東西交通の中核となるだけでなく、低炭素社会実現のためのライフスタイルの変化にも寄与することが期待されています。

同時に、SDGsへの取り組みやLRTの実現、「NCC」がめざす住みやすいまちづくりなどが、宇都宮市全体の魅力を高め、豊かな暮らしに結びつくでしょう。



LRTとSDGs



MOVE NEXT うつのみや

LRTについて、もっと詳しく知りたい方は、ベルモール1Fインフォメーション近くの「交通未来都市うつのみや オープンスクエア」で事業について詳しい情報発信をしていますので、ぜひ訪れてみてください。また公式ウチサイト「MOVE NEXT うつのみや」にアクセスすれば工事情報などさまざまな情報を得られます。

※ ※ ※



LRTとJRをつなぐ地区でもある宇都宮駅東口地区のイメージ図

変わるでしょう。



JR宇都宮駅東口
整備事業の概要

中心市街地活性化 基本計画とLRT

最後に、中心市街地活性化について紹介します。

宇都宮市は現在、第3期の中心市街地活性化基本計画に取り組んでいます。令和2年4月からスタートした第3期計画は、令和7年までにさまざまな活性化事業を行っていきます。その狙いは「LRTの導入も見据えた今後10年先のまちの将来を見通しながら、より一層の活力と魅力ある中心市街地の形成」（宇都宮市資料より）です。

計画の詳細はウェブで公開されていますので、ここではLRTに関係の深いポイントを、宇都宮市が作成した資料からご紹介します。全文を知りたい方は、以下のQRコードを読み取り、宇都宮市のホームページから資料をダウンロードできます。

本計画では、宇都宮駅東口地区整備事業により、新たなにぎわいが創出されると期待されています。その効果を中心市街地にも波及させ、全体の底上げにつなげることも大きな目的の一つです。



第3期宇都宮市
中心市街地活性化
基本計画



プレイスメイキング
うつのみや

宇都宮駅東口地区整備事業の 概要と宇都宮市の活性化

JR宇都宮駅の東口を利用している人であれば、急ピッチで工事が進められている様子をご存知でしょう。

完成後には、ここに掲載したイメージ図のような、新しいまちの姿が現れます。コロナ禍においても、官民の協力のもと、精力的に工事が進められています。

そこで、宇都宮駅東口地区整備事業の概要と、宇都宮市の中心市街地活性化政策などを簡単に紹介します。

整備計画の対象地区の広さは2.6ヘクタール。そこに、さまざまな目的で利用できるコンベンション施設や、市民の憩いの場である交流広場、さらに公共交通などを活用する自転車利用者のための駐輪場などの公共施設が整備されます。

コンベンション施設は、2000人を収容可能な大ホールや、大小様々な会議室等で構成されます。また、交流広場は、1階から3階で構成され、合計約6000㎡の広さを有しており、大規模なイベントの開催が可能となります。

コンベンション施設の外観には大谷石を活用したり、交流広場は植栽などによる緑化を行うなど、県都の東側の玄関口にふさわしい、存在感のある景観を作り出します。

もちろんLRTへの乗降もスムーズに行うことができます。

コンベンション施設の外観・内観デザインや、地区内の施設全体の外観に関する色彩

topics

まちづくり委員会 宇都宮市がLRTや地域活性化について講話

当所まちづくり委員会では、「LRTによるまちづくり」をテーマに活動を行っており、LRTを軸に公共交通ネットワークの再編やLRTのJR宇都宮駅西側への延伸を見据えたまちづくり等について調査研究を続けています。

当委員会では、8月4日に宇都宮市の担当者を引き、「芳賀・宇都宮LRTの進捗状況」および「LRT導入を見据えた中心市街地の活性化戦略」の説明を受け、現在のまちづくりの状況について見識を深めました。

市から説明を受けた福田宏一委員長



第1回まちづくり委員会でこれからの中心市街地活性化について説明を受けました



まちづくり委員会・
福田宏一委員長

（株）福田屋百貨店代表取締役社長）は、「令和5年3月によくJR宇都宮駅東側に、全国初となる線路敷設によるLRTが開業されます。当委員会では、LRTのJR宇都宮駅西側延伸の早期実現や『歩いて楽しい街宇都宮』の実現に向けて、行政への要望・提案を引き続き実施していきたい」とコメントしています。

当所では、昨年12月に提出した宇都宮市への「令和3（2021）年度の予算化及び措置要望」で、LRTの西側延伸と整備の促進を継続して要望しており、『JR宇都宮駅西側へ早期の延伸・整備』『西側延伸を見据え、歩いて楽しい街づくりのため、LRT導入空間である大通りのセミランジットモール化について、社会実験の実施や市民レベルでの議論の場の設定などの検討』など4項目を要望しています。

今後まちづくりのあり方について、LRT開業後を見据え、行政と協力しながら経済界の意見を集約していきたいと思っています。

問合せ

地域振興部
☎028-637-3131